

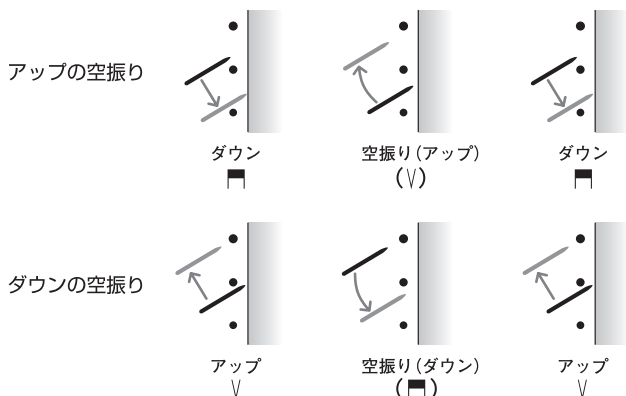
注意点1



空振りと前後のピッキングは必ずセットで捉えよう!

このメイン・フレーズのようにハンマリングとプリングをくり返すフレーズでは、空振りがポイントになる(図1)。ハンマリングとプリング時に右手の振り(オルタネイト)が止まると、リズムに正確に乗れなくなるので、常に右手の振りが一定になるように心掛けよう。実際に演奏する時には、空振りの前後に同じ向きのピッキングが2回来ることを意識し過ぎないで、“ダウン→空振りアップ→ダウン”“アップ→空振りダウン→アップ”といった感じで、一連の動きを1セットにして弾く【註】と良い。慣れるまでは空振りを大げさに行なって、右手に感覚を覚え込ませよう。ただし、空振りの軌道が大きくなり過ぎないように注意!

図1 ダウン&アップ・ピッキングの空振り



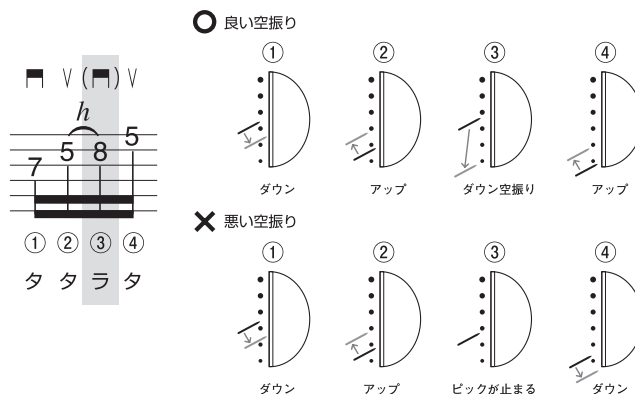
注意点2



空振りのタイミングは歌いながら取るべし!

このメイン・フレーズを演奏する前には、TAB譜をじっくり見て、空振りの入る位置を理解しておくことが大切だ。実際の演奏時には、必ず拍子のアタマに足踏みを入れて、リズムを正確に刻もう。2小節目4拍目のダウンの空振りは、難易度がやや高いので注意が必要だ(図2)。この箇所は弦移動を細かく行なうので、2弦のハンマリング後に右手の動きが止まってしまうやすく、オルタネイトの規則性が乱れることが多い。“タタラタ”と歌いながら、“ラ”がハンマリング=ダウンの空振りと理解しておけば、リズムがズレることはないだろう。弦移動によるミス・ピッキングにも注意しながら、空振りを的確に入れてほしい。

図2 メイン・フレーズ2小節目4拍目の空振り



注意点3



ペンタに緊張感を与えるb5th音を覚えよう!

メイン・フレーズ3小節目3拍目の1弦11フレット(Eb音)は、ペンタのb5th音になる。このb5th音をシンプルなペンタに加えると、スケールを少し外れたような独特な緊張感を生み出すことができるので、プロ・ギタリストはペンタに自然にb5th音を加えていることが多い。b5th音はその名のとおり5th音の半音下の音になるので、指板上では常に5th音の1フレット分左側にある。実際に覚える時には、まずペンタの基本ポジションを頭に入れて、そこにb5th音を加えるようにすると良いだろう(図3)。ちなみに、ペンタにb5th音を加えた音階をブルー・スケールと言う。

図3 Aマイナー・ペンタトニック+b5th音のポジション

◎ トニック=A音 ■ b5th音=Eb音 □ 5th音=E音

